

優秀賞

## わたしの一歩

広島県 東広島市立東西条小学校六年 原和葉

わたしは、小学二年生のとちゅうから学校に行けなくなりました。「じぶんで考えて」と言われるのがこわくて、まちがえるたびに、学校がこわい場所になっていきました。「学校において」と言われても、体がふるえて、なみだが出てどうしても行けない日がつぎきました。それでも、先生たちは毎年やさしく声をかけてくれました。「元気だった?」「会えてうれしいよ」。そのことが、少しずつ、わたしの心にたまっていきました。もやもやした気もちが、ゆっくりと晴れていくようでした。

とくに、六年三組の先生は、わたしにとって大きな力になってくれました。いつもわたしの話をきいてくれて、あたたかいえがおで見まもってくれました。ある日、先生が、「少しだけ教室に行ってみようか?」と言ってくれて、わたしの心が少しずつうごきはじまりました。

この春から、金曜日の放課後だけ学校に行くようになりました。先生はわたしの「やってみたいこと」を大事にして、いつもおうえんしてくれました。その一つが折り紙です。行くたびに少しずつおって、教室の入り口にかざってあります。それがうごいていたら、元の場所にもどすのがわたしの小さな仕事です。

教室には「ゼニックス二世」というゼニガメや虫類のマグネットなど、あそび心いっぱいのかけがありす。だから、教室に行くのがたのしいです。

五月、わたしが黒板のすみに小さな字でメッセージを書くと、十日後にはクラスメイトのへんじで黒ばんの三分の一がうまっていました。先生が「じゅぎょうで書く場所ないよ」とわらってくれたその声が今も耳にのこっています。

一番おどろいたのは、先生がわたしとクラスのみんなの「かけはし」になってくれたことです。こわ

さやふあん、少しのきたいをもって、先生といっしょに、みんなの中へはいることができました。

六月、クラスメイトといっしょに立体うさぎを作りました。みんなの前で教えるのはドキドキして、まちがえたけど、先生がそばにいてくれたのでさいごまでがんばれました。

別の日のドッジボールでは、わたしのなげたボールがはやくて、先生が「おおっ!」とおどろいてくれました。手かげんなしてなげてくるクラスメイトと遊んで、「またやりたい」と思いました。

夏休み、わたしのねがいで先生が教室にとびばこをはこんでくれました。三だんは高く見えたけれど、一回でとべてうれしくてむねがいっぱいになりました。

先生のことばや見まもってくれるえがおが、わたしの心を動かして、一歩ふみだすゆうきをくれました。これからも小さな一歩を大切にしながら、少しずつ前にすすみたいです。

